

プロフィール

ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）にてアジア・太平洋地域の公共政策の分野で修士号を取得。その後、日本で外資系コンサルティング企業にてインフラ・都市開発や官民連携（PPP）案件に従事。本事業では、国連人間居住計画（UN-Habitat）カンボジア事務所において、新規案件の開拓・ドナーとの関係構築・国連開発援助枠組み（UNDAF）の策定等に携わった。現在は、カナダ政府系機関 Invest in Canada にて、カナダへの海外直接投資の促進を行っている。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

理由は主に二つあります。一点目は、開発の現場（フィールド）で経験を積める良い機会だと思ったこと、二点目は国連でキャリアを始める第一歩として、国内研修を通じて国連組織や機能について一通り理解してから海外実務研修に臨めることが魅力的だったからです。

まず、これまで開発やプロジェクトサイクルに関して、理論では理解してきたことを実際に現場で実行に移してみたいと考えていました。研修に参加する前にも、プロジェクトの上流部分（フィージビリティ調査など）には携わってきたものの、実際に途上国の現場でプロジェクトを動かした経験がなかったため、一年間の海外実務研修を通じてフィールド経験ができる当事業は大変有用だと感じました。国連ではフィールド経験が重視される中、それまで現場経験を積む機会がなく悩んでいたところ、当事業を通じてスムーズに民間セクターから平和構築・開発分野にキャリア転向できるのではないかと考えました。

また、外部からは全体像が把握しにくい国連について、海外実務研修に派遣される前に基本的な国連の仕組みや平和構築・開発の考え方について学べる点が当事業のもう一つの魅力でした。様々な組織や制度、専門用語が多い国連に関して、国連機関の第一線で働かれている講師陣から講義を受けられる点が心強いと感じました。

2. 国内研修に参加した感想は？

平和構築・開発に関して、理論を体系的に学べただけでなく、講師陣の実際のフィールドでの経験を基にして語られた Lessons Learned やアドバイス、そして何よりも、理論を実践的に学べるように工夫された数々のアクティビティーが面白かったです。レクチャー型の講義だけでなく、自身の頭で考え、他の研修員の知識やスキルも参考にしながらチームとして答えを導き出す体験を積んだことで、講義の内容がより頭に入っただけでなく、国連で働くイメージを掴むことができました。

また、国連ミッションのナショナルスタッフや、母国で外交官として働いている方など、自身だけでは知り合うことのできないような外国人研修員と出会い、友情を育むことができた

点も大変有意義でした。外国人研修員の、自国の発展、そしてひいては世界の平和を願う強い思いと意欲に感銘を受けました。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

私は、UN-Habitat カンボジア事務所においてプログラムオフィサーとして勤務しました。上長と私の2名という大変小さいオフィスであったため、様々な活動を行わせてもらいましたが、特に1) UNDAF（国連開発援助枠組み）の策定などの他の国連機関・開発機関との調整業務、2) 日本ドナーとの関係構築、及び3) 新規プロジェクトの開拓、の三つが主な業務でした。

まず、ちょうど赴任した時期に、カンボジアでプロジェクトを行っている国連機関全体で策定する五か年計画である UNDAF の策定中であったため、UN-Habitat の実務代表者として、他の国連機関と文言や指標の調整などを行いました。UNDAF2019-2023 の5つの重点分野の一つとして Managing Urbanization が掲げられていたため、UN-Habitat から特にこの分野での知見が求められました。同じワーキンググループに属する UNESCO や IOM, UNOPS などと、カンボジア政府にも受け入れられる政策目標とはどのようなものか、またどのような指標を含めれば Managing Urbanization が達成できるのか、その指標を裏付けるための信頼性の高いデータはどこから入手できるか、といったことを議論し、UNDAF の策定・政府からの承認獲得に貢献しました。

また、3) 新規案件の開拓に繋げる活動の一貫として、様々な日本ドナーとの関係構築を行いました。具体的には、大使館や JICA、さらに15社以上の民間企業に面談の機会を依頼し、UN-Habitat の活動の紹介や連携してプロジェクトを行う可能性などを議論しました。特に UN-Habitat を初めとした国連機関は活動資金の調達が年々難しくなっているため、プロジェクト資金調達を能動的に行う姿勢は評価されます。UN-Habitat カンボジア事務所は民間企業とプロジェクトを行った経験が少ないため、まずは民間企業とのネットワークを構築することに注力しました。国連でつい忘れられがちな「民間企業にとって国連と働くメリットは何か」という点を意識し、自動車メーカーにプロジェクト提案も行いました。

最後に、新規プロジェクトの開拓のため、提案活動を行いました。国際機関向けのファンドへの公募や、日本大使館や民間企業へ直接の提案など、様々な形式でのプロジェクト提案を行い、結果として日本政府から1億円の予算で洪水被害に合った地域で災害に強い住宅再建を行う案件への資金拠出を得ることができました。

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

海外実務研修では、責任を持って幅広い業務を担当することができ、一年という短い間ながらプロジェクト提案・調整・分析といった分野でのスキルを大きく伸ばすことができました。同時に、援助受入国及びドナー国、他の開発機関、そして国連機関同士でも、それぞれの思惑やしがらみがある中で調整をしていくことの難しさ、また国連機関が直面している資金難の厳しさも実感しました。それぞれの機関の立場を立てつつ、最も支援を必要とする人々に援助が届くためにはどのようにすれば良いかを考えた一年でした。



案件候補地の視察

最も印象に残っている経験は、日本大使館と一から関係構築を行い、洪水被災地への支援を行うプロジェクトへの資金拠出を引き出したことです。プロジェクト開拓を自身のみで行うのは初めての経験だったため、最初は手探りで、様々なワークショップや会合に顔を出して人脈を広げるところから始めました。そして、日本大使館の方々に、まずは UN-Habitat にどのような知見を持っているか紹介しつつ信頼関係を築き、そこから、カンボジアの人々のためになり日本の国益にもなるプロジェクトとは何かを議論しました。日本政府の意向に沿いつつ、カンボジアの被災者の方々にもスキルが身に付くような、サステナブルなプロジェクトとなるよう、提案書作成に苦心しました。

プロジェクト開始の署名式においては、在カンボジア日本大使及びカンボジア国土省の国土大臣にも出席いただき、「このプロジェクトは日・カンボジア関係にとって非常に重要である」というコメントも頂きました。微力ながらも自分がカンボジアの人々に貢献できる案件を生み出せたことが大変嬉しかったです。



署名式の様子

また、都市開発分野に関するカンボジア・日本間の関係構築に貢献できた経験も印象に残っています。私がカンボジア滞在中、日本の国土交通省及びカンボジア国土整備・都市化・建設省が開催した「カンボジア都市開発・不動産開発プラットフォーム」第一回会合において、UN-Habitatはこの場で唯一の国連機関として民間企業向けにプレゼンテーションを行いました。これは、会合の企画初期段階から、国交省及び国土省と信頼関係を築き、準備に協力し、情報を提供してきたからこそ実現できたことだと思います。UN-Habitatの民間企業との連携はまだまだ発展段階ではありますが、都市開発においてカンボジア・日本間の協力が本格的に開始された年にまずは民間企業向けにUN-Habitatのアドボカシーを行えたので、今後のUN-Habitatカンボジア事務所の活動拡大に繋がることを期待しています。



官民都市開発プラットフォームでのプレゼンテーション

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

今後は、都市課題の解決、そして官民連携という二つの分野での専門性を磨き、国際機関で再び働きたいと考えています。現在は、官民連携の知識・スキルを伸ばすべく、カナダ政府系機関において民間直接投資の誘致に携わっています。特に都市部において民間企業が担う役割は、資金面でも機能面でも益々大きくなっており、国連や国際機関だけで都市課題を解決することは不可能です。これまで、民間セクター及び国連機関の視点から都市課題を考えてきましたが、次は公共セクター（政府）の視点から、都市力を上げるための効果的な民間資金の調達の仕方・使い方を学び、民間セクターとの効果的な連携方法を模索している国連に将来的に貢献できるよう経験を積んでいきたいと考えています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

本事業は、将来の国連機関でのキャリアに繋がる機会をもたらしてくれる、大変素晴らしいプログラムです。

国内研修では、平和構築・開発分野の第一線で活躍されている講師陣の方から、現場で役立つ実践的な学びを得られるとともに、多様な経歴を持つ日本人・外国人研修員と学び合い、研修後も励ましあっていける「同期」となることができます。

海外実務研修では、国連での業務を体系的に理解・経験でき、将来のキャリアに繋がるような貴重なネットワークも構築することが出来ます。

私は、本事業での経験が国際開発分野での重要なキャリアのステップアップとなりました。
国連機関での勤務を希望されている皆様に、当事業への参加を強くお勧めいたします。